

第42回 日本基督教団総会

2022年9月27日(火)～29日(木)

42 Kyodan Soukai Sokuho

No. 1

2022.9.28
8:45

† 総会速報発行委員会 発行

速報

第42回日本基督教団総会開催

「礼拝から愛のわざへ」
－試練の中で日本伝道の推進－
を主題に

第42回教団総会が、9月26日、池袋のホテルメトロポリタンを会場に始まった。コロナ禍のため4年ぶりの総会開催で、議事開始時点で、総数400名中335名の議員が出席。本総会の主題は「礼拝から愛のわざへ－試練の中で日本伝道の推進－」である。

開会礼拝では平野克己議員(代田)が「罪人の集い・あわれみの主」と題して説教。教団総会が、集まることが喜びとなるような、あわれみのある場となっているかと問いかけた。

今回はコロナ禍の中での総会開催ということで、感染症対策として推薦議員と准議員のための第2会場が設置されていることや部落解放センターによる解放劇が実施されないこと等が、議事に先立って雲然俊美書記から説明があった。

議事日程承認に際し、石橋秀雄議長が議案第55号について教団に抵触するため上程できない旨を述べた。これに対して議場から上程を求める動議が出されたため採決を行ったが少数否決となった。また議案第52号を先議する動議も出たが否決され、原案どりの日程が承認された。

続く議長報告において石橋議長は「教団伝道基本方針」の策定、「信徒の友」による伝道推進運動、教団機構改定、沖縄教区との関係回復、出版局の経営改善等この4年間の取り組みを報告した。

告した。これに対して議場からは、教団として小規模教会の実態の把握や、沖縄教区に対するさらなる歩み寄りを求める意見等が出た。

総幹事報告では秋山徹幹事が新型コロナウイルス感染症拡大への対応、諸災害への救援対策、国内外諸教会との交流、東京オリンピックにおける宗教センターへの協力、教団メディア戦略や青年伝道等の取り組みや、教団三局の状況を説明した。議場からはセクシュアルハラスメント相談窓口の取り組みの報告や、教団立東京神学大学の諸問題の認識を求める意見が出た。議長報告、総幹事報告共に承認された。

常議員会報告について雲然書記よりコロナ禍における総会開催の協議や、出版局の経営改善等に多くの時間をかけたことなどが説明された。この報告に対しては、大阪教区常置委員会から提出された議案を第22回常議員会が承認しなかったことについて多数の意見が出た。

久世そらち副議長は、常議員会報告およびその他の諸報告を報告審査委員会に回付することを諮り承認された。

総会速報について

「総会速報」を発行いたします。今回は3号までの予定です。なお、この「総会速報」は、正式の議事録ではありません。拙速ゆえの間違いなどありましたら、ご容赦ください。

また、この速報はインターネットでもご覧になります。

URL www.uccj.org

新議長選出

雲然俊美



総会一日目、夜のセッションで議長選挙が行われた。ここ数回の総会では、複数回の投票によって当選者が出ていたが、今回は1回目の投票で、長く教団書記の任を担ってきた雲然俊美議員が新しい議長に選出された。

雲然新議長は石橋秀雄議長に「石橋議長は5期12年重責を担ってくださった。様々な困難の中、先頭に立ってくださり感謝である。また、越谷教会にはご苦労をおかけしたこと、このことも心から感謝である」と述べ、石橋議長を覚え、高橋和人議員が祈りを捧げた。

石橋議長が「東日本大震災で始まりコロナで終わるという信じられないような12年を過ごした。支えてくれた副議長、書記に感謝である」と挨拶をした。その後、雲然新議長が「知恵も力も経験もない者だが、主の召しと信じ

【本投票の結果】

投票総数……………339票
有効投票……………338票
無効投票……………1票(内白票1票)

雲然俊美……………185票
久世そらち……………138票
梅崎浩二……………3票

(以下省略)

開会礼拝

『罪人の集い・あわれみの主』

平野 克己牧師(代田教会)による説教

詩編133編1節

マタイによる福音書9章9節〜13節

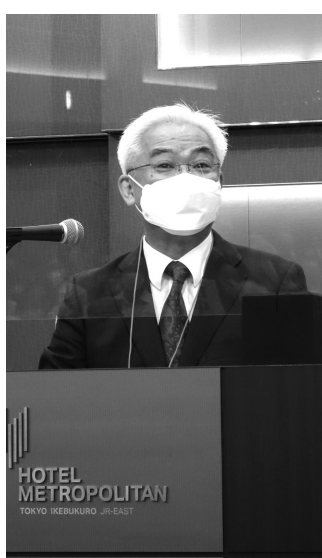
「見よ、兄弟姉妹が共に座っている。なんといい恵み、なんといい喜び」。

対面での総会を開催することができました。主が足を止めて声をかけてくださった兄弟姉妹です。一切の権能を授かった主がその権能をもって弟子たちを遣わされたように、その全権を私たちに注いで、三日後に主は私たちをもとの場所に返そうとされています。

私たちは主に召された同志です。しかし、意見の一致が難しい日本基督教団でもあります。総会終了時に、「なんといい恵み、なんといい喜び」と歌いたいと思います。

マタイの召命物語に、私たちの姿を重ねます。マタイは立ち上がりました。これは復活をも意味する言葉です。新しい命に生きたのです。マタイには召しの理由は分かりません。しかし、主の側には召しの理由、動機がありました。それで良いのです。

その後、マタイの周囲に人々が集まり、罪人のパーティーが始まりました。社会から疎外された人々の集いです。しかし律法学者たちはこの集いを受け入れることができませんでした。なぜこんな食事をするのか、主に直接問うことなしに、陰口的に弟子に問います。ファリサイ派とは「分離



したもの」との説明がなされています。あの人と私は違う、そうレッテル張りをして自分たちのアイデンティティを確立します。主はお答えになります。「医者が必要とするのは丈夫な人ではなく病人である。私に来たのは正しい人を招くためではなく、罪人を招くためである」。私たちの教会の一つの問題は、教会の中に主がいらっしゃらなくなっていることなのかもしれません。教会には主を必要とする人が少数になっているのかもしれない。ファリサイ派は多いのかもしれませんが。その後ユダヤ教は、ユダヤ教ファリサイ派とユダヤ教サドゥケ派に分裂したと聖書学者は考えます。私たちの教会の姿がここにありそうです。ファリサイ派は教会の中におり、私であり牧師がそうです。イエスさまに申し訳なく思います。

沖縄教区の方々がここにおられません。どうしてなのでしょう。身近な教会でもコロナ対応において教会が二分し、牧師が辞任することがありました。正しさと正しさが衝突したのです。

そんな私たちに主の声が響きます。「私が求めるのは憐みであって、いけにえではない」。正しい信仰の行いをなすことで教会が成り立つのではありません。主が望むのは憐みです。正義も大切ですが、主の憐みが分からなければ教会とは呼べません。教団総会が始まります。ようこそ、罪人の集いへ。赦された罪人です。憐みに生きましょう。主がお求めになられるのは、憐みに生きることです。「私が求めるのは憐みであって、いけにえではない」。

その後主は、譬えを付け加えます。「新しい酒は新しい革袋に入れるべきである。もしも古い革袋であつたら、その新しい葡萄酒も革袋も裂けてだめになるでしょう」。

第41総会期 第22回 常議員会報告 (9月26日)

第41総会期第22回常議員会が9月26日、教団会議室で常議員20名が出席して開催された。

総幹事報告において秋山徹総幹事は、第42回教団総会について、審議時間が限られる中で、スムーズな議事進行への協力を求めると共に、事務局として、ホテル側と協議し感染症対策を講じていると報告した。

質疑において、前常議員会で報告されていた東京都発熱センターのスタッフや病院との折衝の結果が問われ、秋山総幹事は、「病院と関係構築、感染者を引き受けてもらうのは無理。アドヴァイザーとして協力してもらう。感染者が出た場合は、東京都の感染対策に電話して救急車を呼ぶ」と述べた。

年金局規定変更および「謝

恩金規則」廃止に関する件では、第42回教団総会議案42号を、謝恩金規則の廃止と共に、年金局規定の変更を求める議案に差し替えることを承認した。雲然俊美書記は、第42号議案を総会資料に載せた後に、年金局規定の変更も必要であることが明らかになったことを説明した。

大阪教区常置委員会から出された教団総会議案、3議案(①北村慈郎教師の「免職処分」が無効であることを確認し、北村慈郎教師の「免職処分」を撤回する件。②日本基督教団「沖縄宣教連帯金」の減額措置及び減額停止の経緯について検証、総括及び意義づけを行う委員会設置に関する件。③辺野古新基地建設中止・普天間基地即時返還・南西諸島基地化反対声明」に関する件)を扱った。

尾島信之大阪教区議長は、「3年間、集まって総会を開催できず、常置委員会で議論した」と述べた。雲然書記は、常置委員会からの提案の場合、教規24条には「常置委員会を経なければならぬ」とあり、答申集による先例に従い①形態、書式が整っていることと、②法規則に則っていることを審査してきたと説明した。

北村慈郎教師戒規撤回議案については、「議案が法規則に則っているかどうかを常置委員会で判断するのは、『常置委員会を経る』を超えている」、「戒規の是非ではなく、戒規に至る手続きに疑義があることを議論すべき」等の賛成意見がある一方、「戒規を教師

委員会の最終決定とする規則の変更を提案して協議すべき」、「議案は、最終決定された戒規の撤回を求めており、総会で議するのは不可能」等の反対意見があった。

沖縄宣教連帯金議案については、「経緯は議事録を見れば記されている」との意見に対して、尾島大阪教区議長は「経緯が皆に明らかになるよう提示してほしい」と趣旨を述べた。

辺野古新基地建設中止議案では、「教区総会で議決して出すべき」との意見がある一方、「『常置委員会を経る』の答申集による先例に従い、内容審査は行わずに総会議案とすべき」との意見があった。

北村慈郎教師戒規撤回議案を少数否決、沖縄宣教連帯金議案は賛成6名で否決、辺野古新基地議案を賛成7名で否決した。

2022年秋季教師検定試験合格者承認に関する件では、第42回総会期の三役に一任し、常議員会の承認を経ることを承認した。雲然書記は、「教団総会が10月に開かれていた時は、合格者が確定しており総会で承認することが出来たが、合格者が確定していない」と説明した。

第42回教団総会における三役および常議員選挙に関する件では、議長・副議長については、予備選挙は行わず、本投票にて選挙すること、常議員選挙について全数連記で行うこと等を可決した。前総会で会期中に開票が終わらなかったこと等を理由に制限連記を求める意見があった。